

令和7年度 立川市西砂学習館運営協議会会議録（第2回）

日 時：令和7年5月13日（火）午後6時00分～午後8時20分

出 席：大槌(会長)、加藤(副会長)、内金崎、長谷川、小笠原、岩元、杉之原、能村、
森、広瀬（敬称略）

欠 席：小林

傍 聴：なし

事務局：高木(西砂学習館係長)、水崎(西砂学習館職員)

1 開会挨拶（会長）

（会 長）：第三小学校で大きな事件があった。このことは、どこの学校でも起こりうることで、今後の対応が注目される。当事者のお子さんがどのような状況で生活しているのか非常に心配だ。

2 協議、報告及び連絡事項

（1）第1回運営協議会（4/11）の会議録の確認について

（事務局）：修正点等がある場合には、1週間以内に事務局に連絡をお願いします。（資料1）

（2）地域活性化講座における食事提供について

（事務局）：資料2（地域活性化講座の実施時における食事提供等に関する指針（案））について説明する。

（委員A）：この食事に関する指針（案）は、地域活性化講座に限定するものか。

（事務局）：サマーイベントの内容検討の前に指針（案）をお示しする必要があると考え上記表題にしているが、今後、生涯学習推進センター主催の講座全体について網羅した指針を作成する予定になっている。

「調理講座等」で、調理した本人がその場で食べきる場合には、保健所への届け出は不要だが、調理した人が、不特定多数に食べさせる場合には届け出が必要になる。（保健所に確認済）。また、調理にかかる実費は受講者負担が原則になり、無償で食事提供は行わない。（この指針は市主催の講座に限る。）

（委員B）：学習館まつりで団体が作成したパンなどを販売する場合はどうなるのか。

（事務局）：保健所に届け出を提出することで可能。

（委員A）：今年度のまつりでは、クッキーやパンなど調理したものを販売する団体はない。

（委員C）：利用団体に関しても、指針（案）同様の制約が課されるのか。

（事務局）：それはない。

（委員D）：この指針（案）が実施される時期（スケジュール）を示していただきたい。

（事務局）：5月中には教育長決裁を取りたい。

（委員D）：それでは、地運協等関係者の意見を聞くという機会はなく、この指針に沿って事業を進めなければいけないということか。

（事務局）：そのように考えている。

（会 長）：先日、ある民間団体が西砂学習館で「誰でも食堂」を行い、無料で食事を提供

していた。それらは問題ないのか。

(事務局)：市主催の事業でなければ問題ない。また、委員の皆さんが私的な立場で、任意団体や民間団体にボランティアとして参加されることには、何ら制限するものではない。

(委員E)：この指針が定められることは、西砂の地域活性化講座には大きな障害になる。我々の意見を聞くような機会を設けてほしかった。約10年間やってきたことが否定されているように感じる。

(会長)：サマーイベントは、夏休みという長期休みに、食事の心配をしなくてもいい「子どもの居場所」を作ることが大きな命題ではないかというところから始まった。居場所不足はこの地域の課題でもあると考えている。「子ども食堂」という貧困層のイメージがあると参加しづらいので、午前の講座に参加するついでに食事をし、そのまま午後の講座にも参加して、1日学習館で過ごしてもらおうというプログラムを組んできた。3年前からは、冬休みのウィンターイベントも行っている。そのことは、事務局にも知っておいてほしい。ただ、食事提供は、公金の使用や、アレルギー、食中毒等、さまざまな課題があることは理解できる。

(委員C)：市は、「子ども食堂」を実施する団体に助成金を今年度から出すそうだ。各種要件はあるものの、その助成金を活用してこの地域で活動する団体が増えてくれば、今まで学習館が担ってきた部分を地域の団体に任せることができる。そのような下地が徐々にできているとは感じている。

(会長)：地域の中で、多くの団体が「子ども食堂」を立ち上げたいという動きがあるので、それらの団体と地域活性化講座(サマーイベント)がコラボすることは考えられないのか。

(事務局)：一存では決められないが、市の事業の一部分と捉えられるため難しいと思う。

(副会長)：地元の方から野菜をいただいたりしてきたが、その扱いはどうなのか。

(事務局)：寄付なので、市に届け出をする必要がある。

(副会長)：食や居場所に、本当に困っている子どもがいる。その子どもたちをどのように救っていくのか。

(事務局)：市の立場では、議会でも「市は子ども食堂を実施しないのか」という質問に対して「行わない」と一貫している。しかし、今年度から、東京都では子ども食堂を立ち上げる際の支援を行うし、市でも民間団体が子ども食堂を行う際にはその経費の一部を助成するという取り組みを行う。市が自ら子ども食堂を実施することはないが、金銭的な支援をするという方針だ。

(委員A)：お弁当持参はいいのか。

(事務局)：第一実習室を確保しているので、持参したお弁当を食すことは可能。

(委員A)：指針(案)の1のカッコ内は不要ではないか。「講座の参加者に無料で食事類を提供することは行わない」ことは、(本市では無料で食事を提供する子ども食堂は行わないため)とは関係ない考える。

何か事故等が起こったときの責任を懸念してこのような指針を決めることになったのだろうが、本当にそれでいいのか疑問だ。

(委員E)：無料ではなく、100円でも徴収すれば問題ないのか。

(事務局)：実費を徴収しなければならない。

- (委員F)：児童館も食に関しては公的機関として同様に難しさを感じている。午前中に実費を徴収して調理講座をすれば、調理したものを食べられるのではないかと。
- (会長)：実費を負担して調理講座をすることは可能だが、保護者の同伴が必要になる。
- (事務局)：保護者の同伴ではなく、同意が必要と変更することは可能だと考えている。
- (委員B)：サークル活動中に、お菓子を持ち寄ってお茶を飲むようなことはいいのか。
- (事務局)：問題ない。
- (委員A)：今まで何も問題が起こらなかったから今後もないとは言えないが、指針が定められることは大事件だ。この指針に基づいて今後のイベントを考えると、①弁当持参、②午前、午後の講座を選んで参加する、のいずれかしかなければならない。
- (委員B)：防災講座で、防災食を体験してみようということで、アルファ化米や乾パンを食べるのはいいのか。
- (事務局)：自分の一存では決めかねる。
- (委員G)：防災講座は、食べさせるために実施したのではなく、実際の非常時にはこうすれば食べられるという体験をすることが主な目的だった。結果的に食べてみたら意外とおいしかったというだけで、防災が主なテーマだと理解している。
- (会長)：議論は尽きないが、皆さん、この指針を理解されたということでよろしいか。
- (事務局)：食の提供は、良かれと思ってやったことが後にリスクとなる可能性がある。例えば、児童館では、包丁でバナナを2つに切ったものをそのまま提供することもない。そのように厳しい管理が徹底されている。今年のサマーイベントでは食を提供せず実施してみて、事業の振り返りの際に、課題があれば次のやり方について考えていきたい。
- また、今後の公開する議事録では、発言者の委員の名前を記載しないことにしたい。
- (委員B)：委員Aという表記であったとしても、活動内容の報告などをするため、結局は個人が特定されるのではないかと。
- (事務局)：会長、副会長以外は、個人が特定できないようにランダムに委員名（A、B等）並べ替える等して対応したい。

(3) 認知症予防講座について

- (委員C)：4月30日に、6月18日実施予定の「認知症予防講座」の打合せを関係者で行った。定員等詳細は、資料3に記載。
- 当日は、テーブルの移動等があるため、サポートが可能な委員の方がおられたら、ご協力をお願いします。
- 講座資料の印刷はどうすればよろしいか。
- (事務局)：6月16日までに事務局にいただければ、講座までに印刷して準備する。
- 必要備品は、スクリーン、プロジェクター、マイク、マグネット。
- (委員A)：資料3の「当日の内容について」では「介護予防につながる体操」となっているが、「認知症予防につながる体操」と承知している。
- (委員C)：議事録を修正する。
- (会長)：それでは、6月18日（水）に協力可能な方はご参加をお願いします。

(4) 西砂サマーイベント～火曜日は学習館に行こう！～について

(事務局)：今年度のサマーイベントについて決める参考資料として、資料4・5・6をお配りしたので、ご覧ください。まず、日程・回数を決めていきたい。

(会長)：お盆を避けた7/22・29、8/5・19・26の5日間が候補日になる。

(委員F)：8/26は2学期始業式の前日なので、子どもたちは参加しづらい。

(会長)：それでは、今年度のサマーイベントは7/22・29、8/5・19の4回にしたい。委員のみなさんから、企画(案)を出してください。

(委員E)：「仲間づくりの活動【ドラマアクティビティ】(田ヶ谷先生)」、「英語で遊ぼう(森委員のご家族)」、「イラスト、絵を描こう(大橋会長)」、「学習館を美しくしよう(掃除、花の手入れ)」はどうか。

(会長)：「英語で遊ぼう」は、イギリスの遊び等を絡めてもらえれば、西砂学習館で取り組んでいない多文化共生の講座にもなり得る。

(委員B)：本人に確認し、連絡する。

知人に川崎重工にお勤めの方がいるので、サマーイベントの話をした。そうしたら、とても興味を持ってくださり、この運営協議会の議事録も確認してくださった。どのような団体なのかを理解したうえで、講師として協力いただけるとのことだ。今、コンビニでもおにぎりを箱につめる作業など、様々な作業をロボットが担っている。普段はお台場などで、ロボットを展示する仕事をしているそうで、講座内容を低学年向き、高学年向き等、リクエストすれば、対応してくださるとのことだ。謝礼は交通費程度でよく、会社の出張として来てくださるそうだ。(資料を回覧)

(委員D)：パラスポーツ体験で「ボッチャ」はどうか。去年はモルックをしたので。

(委員C)：小笠原館長と一緒に、文香(手紙と一緒に香りを送るための小さな匂い袋)をつくる講師と先日お会いする機会があったので、サマーイベントの話をしたら、協力できるかもしれないとお話をいただいている。

(委員G)：第七中の茶道部に、茶道体験をぜひやってほしいが、学習館内の「飲食」という扱いになるのか。茶菓子は購入する。

(事務局)：問題ない。

(委員G)：茶道部は、活動はしているがお披露目する場所がない。作法を含めて、茶道部の活動を地域の方や子どもたちに知ってもらえればと思う。

(事務局)：道具はどうするのか。

(委員G)：先生が持ち込む。

(委員F)：藍染めや草木染めの体験をしてもらうことができる。それらのキットがあるので、提供することが可能。その際、講師は児童館職員なので、自分はサマーイベントに来られない。

以下については、検討中だ。

① 「科学遊び(サイエンスヒトネット)」

② 「子どものための音楽会(ピーターパン)」

「サイエンスヒトネット」は、児童館フェスティバルで協力いただいた団体

「ピーターパン」は、国立音大の「障がいがあるお子さんのための音楽サークル」

で、西砂児童館まつりの時などに、楽器体験やみんなで歌うコンサートを提供してくれる。市内の大学との連携という側面もあるのでいかがか。これからオファーし

てみて、事務局に連絡する。

(副会長)：子どもたちが自宅でパソコンを使うようになっている。また、タブレットも支給されている。しかし、中には苦手な子がいるだろうから、その支援をしてはどうか。

(委員A)：立川工業会は、中学生の職場体験を受け入れている。小学生向けの講座ができないかと考えているが、実現可能かは打診してみないとわからない。

(会長)：パソコンに関しては、教師よりもはるかに堪能な子どももいる。読書量が減ったりして学力の低下も言われており、パソコンやタブレットに関しては功罪があると感じている。また、乳幼児期からそれらを与えている場合も多く、子育ても非常に心配だ。

以前やっていた「ちいちゃんの影おくり」のような、平和のミニコンサートができればありがたい。

(委員F)：伴奏者が体調を崩し、今年は難しい。

(事務局)：6月の会議までに、各委員のみなさんと連絡を取りながら、企画案をお示しするところまで進めていく。

(5) 地域学校コーディネーターとの連携について

・地域学校コーディネーターとの第1回情報交換会について

(令和7年7月予定)

(事務局)：地域学校コーディネーターとの情報交換会は、各学期に1回行っている。1学期は7月を予定しており、内容はこれから検討に入る。他地域では、学校だよりを配布し、学校の状況について共通認識のもと議論している地区もあるとのことなので、西砂小、松中小、第七中の学校だよりを準備したうえで意見交換会を行いたい。

(会長)：自治会で回覧があり、自分は松中小の学校だよりを読むことはできるが、西砂小、第七中のそれは見ることはできない。学校だよりで得られる情報があると思う。情報交換会も回数を重ねてきて、お互いに顔見知りになるほどの関係はできてきた。今後はもう一歩踏み込んだ仕組みを考えていきたい。立川第七中学校の職員会議で、地域学校コーディネーターを紹介されるところまで進んできた。今後は学校のことがコーディネーターに伝わり、コーディネーターから地運協に情報が伝わるという流れができるように方法を探りたい。

(6) 西砂学習館まつりについて

(事務局)：資料10の西砂学習館まつりのチラシをご覧ください。5月10日から、申込みが必要な体験教室の受付が始まり、少しずつではあるが申込みがある。地域のみなさんから関心を持っていただきありがたい。

(7) 各委員からの報告及び連絡事項について

(委員)：市民推進委員会では、10月～12月の講座の提案を検討中だ。明日(5月14日)全体会があるので、実施する講座の確定をする。

災害時の井戸の活用について国がガイドラインを出した。そこで、財政を考える会

では、小平の活動団体等と連携し、実際に進める方向で検討中だ。

(委員) : 6月に、きらり・たちかわ夏号が発行になる。特集では、お囃子保存会を採りあげた。この会は14団体で構成されているが、青梅線を挟んで北側には中里地区の2団体しかない。砂川三番に活動している団体はあるが、この会には属していない。南口は12団体あり、地域の偏りを感じた。

(委員) : 西砂パソコンクラブでは、定例活動のほかに、男女平等フォーラムの催し物の一つとして「再就職を目指す女性のためのパソコン講座ワード入門」をおこなう。受講者も西砂地区にお住まいの方とは雰囲気が違うかもしれない、楽しみに準備を進めているところだ。

(委員) : 「せせらぎ会」というセルフ・カウンセリングのサークルが西砂学習館で約20年活動している。今回、同様の内容で、セルフ・カウンセリング入門講座(全3回)を高松学習館で市民企画講座として行った。受付開始から約2時間で定員を満たすほどの人気ぶりだった。この講座の講師は、各回終了後に書かれた感想文に対して、講評のようなコメントを書いてくれる。その評判が非常に良かった。6月12日には西砂学習館まつりで「せせらぎ会」の公開講座があるので、興味がある方はぜひご参加ください。

(委員) : 上砂川小学校周辺は、学区が砂川町と上砂町をまたいでいること、民生委員の区割りもちょうど半分ずつといった場所になっていることなどの影響があり、「子どもの居場所」が立ち上がらないという課題がある。そのため、青少健や民生委員に声掛けをして会合を行った。参加された方はそれぞれ、「子どもの居場所」の必要性は感じているものの、活動する場所がないということがネックになっている。砂川学習館が開館すれば活動場所になりうると考えているが、そのエリアのみならず、少し外れると場所が全くないエリアがどうしても存在する。活動場所について、相談を受けることがあるので、どこか紹介していただけるとありがたい。

(委員) : 5月11日に、青少健と松明まつり伝承会で麦の網掛けを行ってきた。久しぶりに畑に行ったら、家ができたり、工事のためか周りが囲まれたりしていて、狭く感じた。しかし、日当たりは良く麦はすくすく育っているので、来月松中小の6年生と一緒に麦刈りをする。その後脱穀をして、まつりで松明回しを行う段取りだ。また、青少健の総会を、5月17日午後2時から西砂会館で開催する。

(委員) : 新学期が無事にスタートした。学童保育所は、定員70人のところ毎日50人以上が通所し、何とか運営している。

今は、市内公園ではボールを使えないし、西砂児童館の館庭は比較的広いので、子どもたちはボールを使いたがる。先日、ボールが飛び出し、一歩間違えば大事故になりそうなことが起こった。ボール遊びを禁止したり、子どもにルール押し付けをしたりしたくないため、事故防止策について主管課とともに検討中。

また、今年度実施予定だった中規模改修は、今のところ延期の方向だ。老朽化に伴う不具合等により、中高生が「居場所」を失うことを避けるためにどうすればいいのかが目下の悩みだ。

(委員) : 4月26日に文化会の総会があり、今年度の活動をスタートする。その他、地域学校コーディネーターの話を、明日(=5月14日)職員会議でしてくる。また、学習館まつりに「西砂寿教室」と「コーラス槐」で参加する

- (事務局)：明日(5月14日)、高齢者対象事業の「懐かしい歌を一緒に」を実施する。
また、今年度は戦後80年のため、平和事業の検討を平和人権プロジェクトで行っているところだ。
- (事務局)：今年は戦後80年、被爆80年で、世間の注目も高く節目の年であるため、事業の検討を行っている。平和・人権の担当なので、中学生のヒロシマ派遣事業で8月に中学生を連れて広島にも行く。サマーイベントと重なる日があるため、その日は参加することができない。
- (会長)：西砂学習館まつりの作品展で、「地運協」の紹介の模造紙を5枚掲示する。

3 その他

○次回の地域学習館運営協議会の日程について

- (委員B)：例年のサマーイベントは、昼食を取って1日学習館にいうというプログラムだったが、今年はどうなるのかイメージがつかめないで、次回の会議は早めに余裕をもって行ったほうがいいのではないかな。
- (委員F)：子どもの集中力を考えると、体験したい講座を自由に選べるのが一番シンプルでいいと考える。お昼を食べる場所さえ準備しておけば、お弁当を持ってきた所で食べてもいいし、一度帰宅してから再度学習館に来てもいいし、午前だけ午後だけの参加もいい。
- (会長)：学習支援は、せっかく大学生がボランティアに来てくれる仕組みができていますので、後半は参加者が減るかもしれないが継続したい。
- (委員B)：では、午前2時間の講座を受け、昼食を取り、午後の講座は受けないけど学習支援までいるということも考えられるのか。
- (会長)：そのことも、すべてセレクトすることになるだろう
- (会長)：周知が遅れていること、「くるプレ」がはじまったことなどから、参加者が減ってきたので、チラシを早く配布したい。
- (委員E)：午前・午後バラバラにするのは参加しづらいし、良くないのではないかな。
- (事務局)：昨年は、抽選方式で、参加できるのは1日だけだったようだが、今年は複数回参加できるようにしたい。
- (会長)：日程とプログラムを組むことが先決だと思う。募集方法を1日にするか各々の講座にするかは、その後検討すればいい。事務局で、各委員と連絡を取り合い、具体的な日程や内容を詰めて、委員のみなさんに提示していただけるとありがたい。次回会議は、6月19日(木)に開催する。

- <配布資料>
- ・資料1 令和7年度 立川市西砂学習館運営協議会会議録(第1回)(案)
 - ・資料2 地域活性化講座の実施時における食事提供等に関する指針(案)
 - ・資料3 西砂学習館 認知症予防講座打ち合わせ議事録
 - ・資料4 6年度 西砂サマーイベント チラシ
 - ・資料5 5年度 西砂サマーイベント チラシ
 - ・資料6 令和7年度 西砂サマーイベント提案書(概要案)
 - ・資料7 「2025年・西砂学習館「サマーイベント」(赤と黒のゲーム)」

- ・資料 8 令和 7 年度 西砂学習館事業予定
- ・資料 9 R6.7.16 西砂川地区学校コーディネーターとの情報・意見交換会資料
- ・資料 10 第 45 回 西砂学習館まつり チラシ
- ・資料 11 西一元氣通信 第 13 号（令和 7 年 5 月発行）